

学校名	糸満南小学校
授業者	5年

1. 単元計画

第1単元：4年生までに調べた生き物や環境及び環境問題についてまとめたことを発表しよう。 オリエンテーション
第2単元：海洋教育副読本やインターネットを使って、地域の海の生き物や環境について調べ、興味関心を高めよう。
第3単元：地域（糸満の南浜公園）の生き物や環境の実地調査に出かけよう。
第4単元：専門家（沖縄水産高校）のお話を聞いて、地域の生き物や環境について知ろう。 調べたことをもとに環境問題について考えよう。
第5単元：地域の海の生物や漁業について調べよう。（漁港見学，くくる糸満見学，オルカ号見学）
第6単元：学習したことをまとめて、発表しよう。
第7単元：実践計画を立てよう。 1年間をふりかえろう。

1-2 学年

第5学年

1-3 教科(単元を実地する教科を全てお書きください)

総合 国語 社会 図工

1-4 単元の概要

<p>(1)単元の構想</p> <p>第5学年では、第4学年で学習した海の環境の学習をもとに、海の生物やそれを取り巻く環境問題、海に携わる人々（漁業）について調べていく。また、地域の海岸（南浜公園）の調査や漁港（高度衛生型荷捌施設）・くくる糸満の施設見学、オルカ号乗船の体験活動を通して、海の生き物や環境についての理解を深めていく。そして、学習したことをグループでスライドにまとめ、聞き手に伝わるように構成を工夫して発表を行う。表現活動を通して児童の主体性と個性を生かした自己肯定感の育成につなげていきたい。</p>
<p>(2)海洋教育の視点</p> <p>海洋資源の豊かさだけでなく、直面している海の環境問題についても目を向けさせ、海洋資源を守ろうとする気持ちや環境を守るために実践しようとする気持ちを持たせる。</p> <p>☆生命：生命の起源と進化，水産資源としての海の命</p> <p>☆環境：人々の生活や産業を育む環境，地域の環境問題</p>

1-5 単元設定の理由・ねらい

糸満の海の生き物の生態やそれを取り巻く環境についての体験的・探求的活動を通して、地域の海の豊かさや課題を見つけるとともに、環境等の問題も知ることで、地域を大切にしようとする気持ちを抱いたり自分たちにできることを実践したりする気持ちを育む。

1-6 育みたい資質や能力、態度 【 評価 】

ア. 【知識・技能】

海の生き物や環境について、実際に調査（観察）・見学したり、インターネットを活用して調べたり、専門家（糸満水産高校や糸満漁港）の講話を聴いたりすることで海に関する地域（糸満）の課題を理解することができる。

イ. 【思考力・判断力・表現力】

海の生き物や環境について、体験的・探求的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。

ウ. 【学びに向かう力・人間性等】

海の生き物や環境の保全に携わっている人々の思い、それらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考え、広めようとする。

1-7 単元の展開(全 54 時間)

時間	学習活動・主な内容	教師の指導●/主な評価□ 外部連携◎/使用教材◇
単元1 ②	○4年で学習した生き物や環境についてまとめたものを発表する。 ○オリエンテーション (学習計画の見通し、探究活動の仕方など)	◇タブレットの活用（ジャムボード、プレゼンテーションソフト） ●1年間の見通しを持たせる。SDG'sの視点を持たせる。 □糸満の海の環境や産業に興味を持ち、調べようとしている。【ウ】
単元2 ④	○糸満の海の生き物や環境について海洋教育副読本を読んだり、インターネットで調べたりして、興味・関心を高める。	◇副読本やインターネットの活用。 ●ジャムボードやスライドに記録する。 □糸満の海の環境や産業について調べ、地域の課題を理解することができる。【ア】
単元3 ⑤	○昨年の調査や学習を踏まえ、現在の地域の生き物や環境の様子を予想する。 ○地域（糸満の南浜公園）の生き物や環境について実地調査をする。 ○振り返る。	◇タブレットの活用（ジャムボード、スライド） ●南浜公園の海の様子（環境）や生き物を見学・調査する。（ゴミ拾い） □見学・調査したことを自分の思いを入れながら表現し記録することができる。【イ】
単元4 ③	○生き物や環境についての疑問や質問等についてまとめる。 ○沖縄水産高校の専門家を招いて、地域の生き物や環境の現状や課題について講話を聴く。 ・インタビュー内容を考える。 ○ふりかえる。	◎沖縄水産高校の講師の招聘。 ◇タブレットの活用（ジャムボード、スライド） 副読本、インターネットの活用。 ●糸満の海の環境の現状や課題について知る。 ●インタビュー内容を話し合わせる。 □専門家の講話を聴いたり地域の漁業について調べたりして、地域の海の生き物や環境の現状や課題を理解することができる。【ア】

単元 5 ⑬	○地域の漁業について調べる。 ・糸満の漁業を調べる。 ・漁港の方へのインタビューの内容を考える。 ○糸満漁港（高度衛生型荷捌施設）の見学。インタビューをする。 ・くくる糸満の見学。 ・オルカ号乗船 ○体験したことをまとめる。	◎沖縄県・糸満漁連（高度衛生型荷捌施設）、くくる糸満 見学。 （宿泊学習） ◇タブレットの活用（ジャムボード、スライド） 副読本、インターネットの活用。 ●糸満の漁業の特徴を調べる。 ●漁業に携わる人達へのインタビュー内容を考える。 ●日本の漁業と比較する。（社会科の漁業と関連） <input type="checkbox"/> 漁業に携わる人たちの講話から、海に関する課題を理解することができる。【ア】 <input type="checkbox"/> 漁業に携わる人たちの思いやそれを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考えることができる。【ウ】
単元 6 ⑮	○自分のテーマに沿って調べたことや体験したことをまとめる。 ○発表練習。 ○まとめたことを発表する。	◇タブレットの活用（ジャムボード、プレゼンテーションソフト） ●発表の相手を意識した発表にする。 ●発表の練習をする。 <input type="checkbox"/> 海の生き物や環境について、体験的・探究的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。【イ】 <input type="checkbox"/> 海の生き物や環境の保全に携わっている人々の思い、それらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考え、広めようとする。【ウ】
単元 7 ⑫	○自分達にできることを話し合い、実践計画を立てる。 ○実践してまとめる。 ○1年間を振り返る。	◇タブレットの活用（ジャムボード、スライド） ●実際に取り組めることを話し合わせる。 ●無理のない実践計画を立てる。 <input type="checkbox"/> 海の生き物や環境の保全に田主様っている人々の思い、それらを取り巻く環境問題について知り、自分たちにできることを考え、広めようとする。【ウ】

2 学習活動の実際

(1) 単元における位置づけ

単元 5 9～15 / 15 時間目

(2) 本時の目標

①指導目標

糸満の水産業において、漁業関係者や自然環境が抱えている課題は何なのかについて調べ、自分たちにできることについて考える。

②本時のねらい

糸満漁港を見学し、漁業を行うにあたっての課題を知り、課題に対してどのように対策や努力をしているのかについて理解する。そして漁業関係者の願いについても分かる。

(3) 本時の展開

主な学習活動／反応	●教師の指導・支援 □評価の視点（方法）
1. 学習のめあてを確認する。	●糸満の漁業についての歴史を振り返り、現在の漁業の取り組みと課題について調べるねらいを共通確認する。
めあて：糸満漁港を見学し、地元の海の環境と漁業について理解しよう	

<p>2. 糸満漁港の施設を見学する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●説明を聞いて分かったことをワークシートにメモさせる。 ●事前に「児童の疑問シート」と漁業関係者に渡し、児童が知りたいことに対して説明してもらえるように配慮して頂く。 ●漁業を行うにあたっての工夫や努力、課題を聞いてメモを取る。 (漁獲量の変化、漁業のやり方の変容、軽石などの環境問題への対応、後継者育成、養殖漁業について等) ●目標に対しての取り組みの現状と問題点を確認する。
<p>3. 漁業関係者に「糸満の海的环境と漁業の現状」についてのお話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業関係者の願いについてお聞きする。 □糸満の水産業について、実際に糸満漁港を見学して施設見学をしたり講話を聴いたりすることで海に関する地域（糸満）の課題を理解することができる。【知識・技能】
<p>4. SDGs への具体的な取り組みについてお話を聞く。</p>	
<p>5. 学校で調べたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめる際の振り返る視点を与える。 ・自分たちの食生活を見つめなおし、持続可能な食生活を送れるよう行動を変容させるようにする。
<p>6. 次回の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で、自分で考えた解決策の実施計画を立てる。 □糸満の漁業関係者の願いを知り、様々な課題を乗り越えるために自分たちにできることを考えまとめることができる。 <p style="text-align: right;">【学びに向かう力・人間性等】</p>

3. 今回の活動の自己評価(成果)

- ・糸満の海的环境についての体験活動に主体的に取り組み、地域の海の豊かさや課題を見つけることができた。
- ・糸満の海的环境問題に対して自分たちでできる取り組みを考え、実行することができた。
- ・学習を通して、地域の海の良さを改めて実感し、地域の海をもっと大切にしようとする気持ちを育むことができた。
- ・グループで協力してまとめることで、自信をもって表現することができた。

4. 今後の課題

- ・一人一人の問いを大切にした学習（探究学習の計画）
 - 学年の前半に様々な体験活動を取り入れ、それを基に子どもたち一人一人の探究活動につなげることができるようにする。
- ・キャリア教育の視点を取り入れた授業改善
 - かかわる力，振り返る力，やりぬく力，見通す力を意識した授業づくりを行う。
- ・児童一人一人が自信をもって表現する力の育成
 - 児童の思いや探求心に沿った学習活動計画を立てる。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本校は、周りを海に囲まれ、漁業の盛んな地域である。また、埋め立てや人工ビーチが存在する。